

美術科授業案

日 時 平成 25 年 10 月 24 日 (木) 5 校時

生 徒 1 年 A 組 男子 13 名 女子 20 名 計 33 名

授業場 美術室

授業者 更科 結希

1 題材名 「和で折る、つつむ ―新しい和の模様 包む布をつくることから―」

2 題材について

(1) 題材観

私たちの暮らしは、徐々に西洋化し日本らしいものや文化は意識して見つめない限りその良さや特徴を学ぶことは少なくなった。それは文化は日常生活に浸透していることもあるが、文化の良さに気づけず西洋化してしまった面もあるだろう。そうした環境が、日本人が日本の文化はどんなものであったのかを意識できなくなった要因の一つではないかと考える。学習指導要領に日本の美術や伝統と文化について理解を深めるよう記されてからしばらく立つが、それは、日本人が日本の良さを感じる工芸や文化を日常で感じられる機会が少なくなったためだろう。

本題材は、日本の美術を学ぶ入り口として捉え 1 年次の段階において、日本の文化を意識的に見ていくために「模様」と「包む」に焦点をあて学び実際に制作を通してその特徴に触れていく。「模様」は一つの形が連続することによって様々に形が変化していく造形である。和柄の形をそのまま使用するのではなく、子どもたちが新しい和の模様を作るといった意味を込めている。新しい和の模様を考える上で、日本の模様の特徴にはどのようなものがあるか考え見つけていくことが文化を知る一端に繋がるだろうと考えた。また、「包む」では、かつて包まれてきたものを考え、包む行為そのものの意味を考えながら実際に使うことを想定した作品の制作を行っていくものとする。

(2) 生徒観

省略

(3) 指導観

題材観と生徒観をふまえ、本題材では、日本らしい模様の特徴について学びながら、自ら考えた形を展開し和の模様を作り上げる過程を組み込んでいく。

そのため形を生み出す過程で、自然物から想起する場面を設定する。そして、日本の模様の特徴を学び自らの作品に生かすための視点を考えていくことが本題材の重要な過程となる。自分の形を生み出すために「みる」こと、そして他者の作品を「みる」という活動が意図的に設定され、またその視点を自ら見つけていく過程に組み込む事で、主体的に表現活動を行い多様な表現につながっていくだろうと考える。

布への染色は形をスタンプにして押していく方法を取る。本題材での中心的な取り組みである「形」の組み合わせ、「模様」のつなげかた、「模様」の配置の構想を練りやすくするためである。生徒の模様に対する試行

錯誤する時間を保証することで、造形を構成していく基礎を養いたいと考える。また、日本にはものを包む風呂敷や手ぬぐいなど独特の文化がある。日常生活における布を使う場面を想起させ、用途に応じた作品の展開を行いたい。

【研究の視点】

A 表現領域において、創造活動をより深めていくための手立て

表現の過程において、「つくる」時に「みる」場面を意図的に組み込み、認知的な創造を目指すことができないかと考えた。「みる」活動がそれぞれの過程で取り組んできた事をいつでも振り返り、つくる活動をより発展させていけるのではないかと考える。

- ① A-1 自ら制作している時に「みる」過程を組み込む。
- ② A-2 他者の作品を「みる」こと積極的に取り入れた「つくる」過程の場面設定。

B 表現領域において対象を「みる」視点を自ら見つけるために教材や価値の経験をする手立て

「和」という対象を捉えるため、どのような視点をもつべきか、他の価値あるものと比較対照し観察する事によって意識させたい。その中で、具体的な言葉に表し「つくる」過程の中で取り入れて行くことで、より主体的な学習へとつながるだろうと考える。

3 題材の目標

日本や諸外国の模様を知り、形の特性を生かし連続させ模様をつくり出す過程の中で、他者の意見や自らの振り返りの活動を生かし、自らの表現の幅を広げることができる。

4 評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想・構想	創造的な技能	鑑賞
ア構成や装飾を考えて表現することに関心を持ち、日本や諸外国の模様の美しさなどの学習を通し、主体的に表現しようとしている。	ア目的や条件などを元に、形や色彩の効果を生かして構成や装飾を考え表現の構想を練っている。	ア素材の加工の仕方をも身に付け、表したいイメージを持ちながら意図に応じた材料や用具の生かし、見通しをもって表現している。	ア日本や諸外国の模様について鑑賞し、造形的なよさや美しさ、対象のイメージ、表現の工夫について味わっている。 イ作品の制作過程の中で自分や他者の作品に対し、デザインの視点を理解し観ている。

5 題材指導計画（4時間計画）

	学習事項	主な学習活動・手立て	評価			
			関	発	創	鑑
1	和についての学習 和について考える 模様の種類を考える 包むについて	○和にはどのようなイメージがあり、どのようなものであるか考える。 ○「包む」ことの意味について考える。また「模様の種類」について考える。 ○使う場面の想起	ア	ア		ア

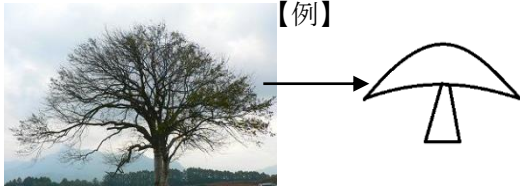
2	和の模様について学ぶ	○諸外国の模様と日本の模様を比べ、「和」の特徴について考える B ○日本の模様の変遷について学ぶ（時代によって異なる）	ア			ア
3 本 時	形の構想 ・ひとつの形から連続するパターンへ	○自然の中から見つけた形をヒントに元になる形をつくる ○連続したパターンを構想する【和を意識した組み合わせ】B ○和の模様に近づけるよう工夫する。	ア	ア		イ
4	形を模様に ・図の組み合わせとパターンの連続 ・配置の構想 ・形の追加の検討	○布面への構成を構想する A-2 ○形のスタンプをつくる A-1 ○スタンプで連続してパターンを構想する		ア	ア	イ
5 6	布への染色 ・包んでみる ・日本の色についての学習	○スタンプを使い布に染色していく A-1 ○日本の伝統色を選択し、染色する 山吹色 鶯色 木賊色 瑠璃色 京紫 茜色 海老色 柿色 金茶 ○図の追加の選択をする A-1 ○布を実際に使ってみる	ア		ア	

6 本時案

(1) 本時の目標

自然から形を取りだした形を繰り返し模様をつくり、和を意識した模様に発展させていくことができる

(2) 本時の展開 3 / 6 時間目 (○…発問,△…補助発問,□…指示、説明)

主な学習活動	教師の働きかけ・手立て	【評価方法】・備考
1 前時に考えた日本の模様らしさについて確認することができる。 【生徒の予想される答え】 ・形が簡単・余白がある ・並んでいる・色が複雑ではない	□前時では、日本の模様と海外の模様を比較しながら日本の模様らしさの特徴について考えました。 ○どのような特徴が見つけれられましたか？B	【観察】 ・前時の生徒の意見を掲示しておく
新しい和の模様をつくりだそう		
2 自然の形から、模様の元になる形を見つけ出す。 ・撮影していた写真から、形を取り出す。	□自然の形を記録していた中から、模様の元になる形を取りだし作ってみましょう。  【例】	【観察、別紙用紙】 ・自然の形の部分や全体に注目させる ・アイディアシート1に描く
3 形をつなげて模様をつくる。	□取り出してつくった形を、繰り返して新しい和の模様を作ってみましょう。B △どれだけたくさんの組み合わせが生まれる	【観察、別紙用紙】 ・アイディアシート2 (トレーシングペーパー) に描く

4 考えた模様を交流し、一番和に感じる模様を決めることができる。

【生徒の予想される答え】・単純な形・直線であれば直線同士・重ねて綺麗に見える・ずらしても形になる

5 今日の授業の取り組みを振り返ることができる。

でしょうか？

△和柄の模様パターンを再度確認してみよう。



□一人2種類程度考えてみよう。

□どのような案がでているか、交流してみよう。

○どの模様が和の模様に近いでしょうか。



□班の意見を聞いてみよう。

□どの模様の組み合わせにするか決定しよう

□今日の取り組みを振り返りや次の時間に取り組みたいことをコンセプトシートに記入しましょう。

【観察、コンセプトシート】

・案の交流

【コンセプトシート】